



厭蝕太平樂記

貳拾

~ 13
3553
20



門 13
號 3553
卷 20

早稲田 大學 圖書館
藏 33.11.10 契
藏 書

一 廣銘太平樂記卷之六



月録

一 鴻田震之助翁撰一平

附 録 翁 撰 一 平

一 素名孫法信肉邊一平

附 録 孫 法 信 肉 邊 一 平

一 廣田集人

一 飛鳥...
 一 飛鳥...
 一 飛鳥...
 一 飛鳥...
 一 飛鳥...

飛鳥



鴻白... 飛鳥...

飛鳥... 飛鳥...

去程... 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥...
 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥...
 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥...
 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥... 飛鳥...

下 飛鳥...

二

久乃バも到ハハは多此陸幕成打かそと
 方ハ麻抄抄物ト其便者トてゆあす
 鴻田と公より此山傍と云く言成社と云く
 してあ連る為ト下ト思ハ一ノ葉草遠
 去ク鴻田と云くこしなる言時此山村
 向ハて鴻の山書箱と云く名ハ多乃ト言成
 其成平記みする所交山見の言とあるあり
 河内一國を此ト一水ト山名をたると
 此山ト一ノ言成ハ其成山見の言とあるあり

鴻田山邊ハ道交ハ保不有たりと云く
 其成成知く言ハ介あり場所及人ト其成保保
 けりハ文武士た多しものあり此所此乃
 下トハと束と云く言ハ我唐礼公の志言
 此山ト介ありと云く言ハ山内ト云ハ此山
 してありと云く言ハ文武士と云く言ハ神
 其成此山ト介此書箱成と云く言ハ其成
 けられたりと云く言ハ其成此山ト介此山
 其成此山の保成切ると云く言ハ其成此山

形もくもれ例と以てす只今かゝる世に
 柳をくくもる統多かれ油を統とて
 我れ統したる統身は流へてと能抑して
 汝子お流し流者もく血ひて油を合
 通よりくくもるて耳鼻を切て高きんら
 更ふくくもる切てまのくくもる月
 歳年くくもるてくくもるのくくもる
 好成切てくくもるてくくもるのくくもる
 少村めくくもる流差をくくもると扱て

かしき流者くくもるのくくもるのくくもる
 早もくくもるのくくもるのくくもる
 心えくくもるのくくもるのくくもる
 能くくもるのくくもるのくくもる
 我れくくもるのくくもるのくくもる
 更後くくもるのくくもるのくくもる
 ともくくもるのくくもるのくくもる
 ありくくもるのくくもるのくくもる

九一平樂方書卷下

一五

強しき書翰を流く事の早き折つたのたふは
 ちりしそ利へ死ねせし如の甘菓を待の名を
 と肉甲は焼めて早き君へ各言の董了
 一書をさるしものありて折れを折付せしり
 と早くべしそ早き甲はなるめどかきし
 ちのいのはれとまほしきゆりてありてあり
 歌れしそ早き折つたのたふは
 ちりしそ利へ死ねせし如の甘菓を待の名を
 と肉甲は焼めて早き君へ各言の董了
 一書をさるしものありて折れを折付せしり
 と早くべしそ早き甲はなるめどかきし
 ちのいのはれとまほしきゆりてありてあり

なる部は候御事をあつとしかものありは知
 高井田村は豊後とあつてはるもの大園明
 人あつてはる他の血城を全て早ひいり
 後か一折つたのたふは
 高田のまづの候はるものありは知
 高井田村は豊後とあつてはるもの大園明
 人あつてはる他の血城を全て早ひいり
 後か一折つたのたふは
 高田のまづの候はるものありは知
 高井田村は豊後とあつてはるもの大園明
 人あつてはる他の血城を全て早ひいり
 後か一折つたのたふは

六二冊樂部言書

一五

志願としたりつらむに村の身な懐かしくはけり
 ぬを懐かしくしりく今居るに甲身二交りて
 河上とある所は思ふにわづか懐かしく
 とは伊豆の男をい人の孤りてわづか
 ましとぞもけるを金田いけり村土民
 申すにそと成部のまゝくもあらんといふ
 村の御方馬河原の山越へ此へ大國橋の
 御恩に懐かしくし我々の心を懐かしく
 河上と後兵の解きあつてそと成部を
 書かす身にしてく利殺しを乳母と
 乳母の身抱てておのほくはれては
 後公安といひ土民の心を懐かしくし
 千は行申すにその心は懐かしくあ
 海原の御方馬河原の夜山田草たは
 けり今東軍師の合を文とくそは懐か
 玉松をとり供してわづか懐かしく
 此れ池村に付て方おるを大國橋
 して討北平をいひてそと成部を

書かす身にしてく利殺しを乳母と
 乳母の身抱てておのほくはれては
 後公安といひ土民の心を懐かしくし
 千は行申すにその心は懐かしくあ
 海原の御方馬河原の夜山田草たは
 けり今東軍師の合を文とくそは懐か
 玉松をとり供してわづか懐かしく
 此れ池村に付て方おるを大國橋
 して討北平をいひてそと成部を

太平御記巻之六

六

ち抑のちのくわあふらきまへかゝりてほ
らるねに心動かさ山田御祭神ゆき幸あり成
事と思ひおたをばすてしるすなぐゆき田
年つを向しきさ及み答問の信ふ陸を
お軍まゐりの軍に侍るるあはる願ふ島女入
りまべしとておあふきよはゆしとて上あて
いさきのくはせしきよあふ陸の悪名をささぎ
わくしと申すそまひりし山田御祭神田
ゆき打城縁しゆきよ五百りてねそりな

得ては清及の國に事成ゆ供て地つたそ
山田ゆき命の経痛きまはり可きなり
れりあはれそ能あく山田女見持た
り社者さそ平の後紀別あくるあ
今日然る及か答陸奥のらねる南朝なる者
のる公判らねとまひりか厚くそむの御
かかるとか及成るまゆね中長つ吉酒井
府をとりて國治の神て志し陸をまに夜
りね軍の志し陸と侍りる及望あるわす

もの備ねをい具して久遠なる家のなる様
其の給馬に入る者も口をい具して其の御
押さるる所も口をい具して其の御
給馬にたす持たるものも口をい具して其の御
の軍兵の首身ありては口をい具して其の御
少隊の様も口をい具して其の御
ぎては軍兵の首身ありては口をい具して其の御
その御隊の首身ありては口をい具して其の御
はあ村を國の隊に地の人の隊に口をい具して其の御

どもその御の隊の首身ありては口をい具して其の御
依く井師の隊に口をい具して其の御
少隊の首身ありては口をい具して其の御
其の御隊の首身ありては口をい具して其の御
依く井師の隊に口をい具して其の御
かんと成つて切符書の牛成に口をい具して其の御
父も久切符に口をい具して其の御
引くくはる様の口をい具して其の御

祖父也 祖父の首ゆきつて 市村が泣く 来り
土百姓のてら 切あめく 針糸 天下の衆
河内平澤 さらさら 山根より ころころ
二ツ井 首と見せ 市村 笑て 相し 紛念
のりり 車西姓を 帰て 人 紛よかく ざらふり
あざ 代わりの 針糸を 市村 海 舟わりの
太り 珍あり 市村 海 舟わりの 大針を 針糸
はひて 平舟の 首ゆきつて 市村の 書と
悔 しく 市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
して 紛 泣く 涙り 涙り 市村 泣く 市村 泣く

市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く
市村 泣く 市村 泣く 市村 泣く

心はあぐさめ。祖父親を在國待のり意と
わが去年のあき書候と形か。またたかき
すめくすといひぞりして今年天下の
推索して流のばせらるる。なるま
自極く妙をなほほふ君く待く
くわのバニてい。いあり。と
と成し新島中。とあり。とあり

兼各海防軍内也。とあり。とあり

海防軍内也。とあり。とあり

長島秋の草摺村。とあり。とあり
八尾の地。とあり。とあり
度々。とあり。とあり
信。とあり。とあり
に。とあり。とあり
とあり。とあり。とあり
とあり。とあり。とあり
とあり。とあり。とあり
とあり。とあり。とあり
とあり。とあり。とあり

誠さぞとつものなればあるゆゑかいつくは換を
 して武勇の由が十倍さうといふは皆そり
 ありて相てはあつてこそはあふそはれは
 せんといふ語と極めたる物なると見れば
 是れは世とゆふに事あるは事と事と
 ありてはえれ親室なる外軍の後土佐國
 石取られ海の中へ沈めたるる事には一
 介の和あるはあつてはゆゑさうと書る
 物に書物とぞし私からの後海の書物

はづらゐる所へは無事あるよあつてと
 折やもさうとてしる事あるは古の事
 思ひはるはあつてあるはるはあつて思ひは
 してはるはあつて思ひはるはあつて思ひは
 ちてはるはあつて思ひはるはあつて思ひは
 してはるはあつて思ひはるはあつて思ひは
 ちてはるはあつて思ひはるはあつて思ひは
 してはるはあつて思ひはるはあつて思ひは
 ちてはるはあつて思ひはるはあつて思ひは

太平御記

十一

中はして強をぬたりしと信ひて替はかちめて
 及堂にあらう口のあきもつれそをさちねとし
 中央をと流陣をききとぞをしりる野的は海を
 大道の程はあはれしと決甲とそめを向て陣を
 及もなき堂には魚をさちねとしと替押さち
 多海向のへしと鳴けしと押さちと替を思
 流道ちのひの聲をきしとちの押さちとあるは
 しく初の新掃と見せしと押さちと人とりい
 々ねは及堂にあらうとぞを思ひていふは
 との記して居たりる物又あるもの茶名

中はして強をぬたりしと信ひて替はかちめて
 及堂にあらう口のあきもつれそをさちねとし
 中央をと流陣をききとぞをしりる野的は海を
 大道の程はあはれしと決甲とそめを向て陣を
 及もなき堂には魚をさちねとしと替押さち
 多海向のへしと鳴けしと押さちと替を思
 流道ちのひの聲をきしとちの押さちとあるは
 しく初の新掃と見せしと押さちと人とりい
 々ねは及堂にあらうとぞを思ひていふは

酒也知の中より御酒はわね ち海つとき
 乃の才力くつてうんで母之なる如く 加井知者
 甲の中く土徳と入て大向外へあきぬるは
 海也か軍兵を居動かさる如く 真徳甘を相抄
 守りる事 西の傳ひて 実の心 実の心
 海也かゆりくと 命ありて 近海に相取
 ちつらひの如く 油の中へ ちまよのまなま ちま
 ちみすれん又かまのあまは ちん ちん ちん
 ちとて 追掃ちれ ちん ちん ちん ちん ちん

切なりて ち馬のちし ち高つて 鏡の角
 肉を弄り 相馬の 相馬の 相馬の 相馬の
 了の由て ちん ちん ちん ちん ちん
 いちや 柳の 大向 ちん ちん ちん ちん ちん
 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
 追流 首ね ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん
 兵置 ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん ちん

けりるのめく二たつ病のわびまの智と川とあ
 りて打て柳うぐい山田印記が落つ平陸路を
 打ぬすま柳ふゆしんろ雲のくわがわらるる時
 流るうつましんはたさしん川めりる城を落し
 小川を内つ平家橋より大面をお柳けりるも
 如くあ雲な雲化して柳うぐい川けりる都立平家
 流るうしんまらしん大面を柳けりる
 ちあちあを能く白くまら柳を川に流る

一平家流るう大面を柳けりるも
 流るうしんまらしん大面を柳けりる
 ちあちあを能く白くまら柳を川に流る
 流るうしんまらしん大面を柳けりる
 ちあちあを能く白くまら柳を川に流る
 流るうしんまらしん大面を柳けりる
 ちあちあを能く白くまら柳を川に流る
 流るうしんまらしん大面を柳けりる
 ちあちあを能く白くまら柳を川に流る

小柳のりけり 老の悴りるまきしる又り
 云がけし日くせんをさるる 神のほろ及のまめが
 内子に心おこはしとく かの下つる実の道
 する林返すよとさるる 故あがふとめ
 のなりの布も 首飾をさるる 中まことのふか
 かいしげり いかたけり 併れりしとく 首飾
 の角も人 只東はちりあやくる びざる 障連
 さらす布や 戦場うとく 又の首飾あやくる
 けいさるること けいさがりけり けいさるる けいさるる

解解りくくろと 雲せあが 油けり かなるの
 布もその身をさるる 神中居る 保昔能の首飾
 けいけり 首飾にさるる 又と川から 神の首飾
 首飾をさるる 油がさるる 首飾にさるる
 のりけり 油の けいさるる けいさるる けいさるる
 けいさるる 首飾の 首飾の 首飾の 首飾の
 首飾の 首飾の 首飾の 首飾の
 首飾の 首飾の 首飾の 首飾の
 首飾の 首飾の 首飾の 首飾の
 首飾の 首飾の 首飾の 首飾の

の傍に居る地はゆけ山麓に下りて居る地はゆ
き苦しい面をしてしりし移る事多し
りね公村の外の麓にありて是れ者より
しりしとてしりしとてしりしとてしりし
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より

幸甚ありては我れ多きとて居る事多し
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より
りね公村の外の麓にありて是れ者より

神を祀りて大に祈る所なく死にゆくも早に身は
 千を少くして後を多しと首と徳の事ありと持
 均す則て公く心流し入らるる事書附す曰
 夫れは少くも多しと命を致さばは城を
 備れありて西川東運のつらき事危
 始に利とたのふ介日入る日備と始ぬ
 意く討死しと困りて命を祈りて
 あく是れとて相中のみ後及ち事と
 者あるはと城ありては神が徳あり

神の力を祈る事軍に上るに後水利運を
 定るち中と事と高の流は事とはあはれ
 下念を鬼と成て徳川の流三年といはれ
 下神の徳の力を祈りて事と
 月
 後及ちの事書附す
 神の力を祈る事軍に上るに後水利運を
 定るち中と事と高の流は事とはあはれ
 下念を鬼と成て徳川の流三年といはれ
 下神の徳の力を祈りて事と
 月
 後及ちの事書附す
 神の力を祈る事軍に上るに後水利運を
 定るち中と事と高の流は事とはあはれ
 下念を鬼と成て徳川の流三年といはれ
 下神の徳の力を祈りて事と
 月
 後及ちの事書附す

四年申しんからしんせむらせむら御みこ額がくが長ながが片かた打うち斬きりし
 後のちの上うへ帯おびとつつああ人ひとが投な身みらられれるる角かく白しろく
 少すくくああつつららみみららるる是こゝにに見みええててああるる者もの者もの也なり
 處ところにに御みこ座ざ堂どうがが少すくく助すけ助すけ日ひ直ただ直ただれれししりり
 古ふるくく支し申まをのの方かた方かた厚あつ厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうととままにに
 流なが城しろ橋はし長なが島しま流なが島しまのの上うへ道みちがが上うへ等らににりりるる
 少すくく下くだでで居ゐるる上うへ等らににりりるる馬うま御みこ座ざ堂どうととままにに
 神かみのの少すくく獨ひとり月つきのの御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 非ひたたくくららるる角かく白しろくくのの意いのの人ひと直ただ直ただれれししりり

刻きりとと切きり殺ころししるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるる今いまのの川かわ際ぎは
 中なか古ふる流ながのの流なが平ひら神かみのの御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 箇この先せん之の平ひら切きりててああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 御みこ座ざ堂どうににああるる流なが平ひら神かみのの御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ
 今いまのの川かわ際ぎはににああるる厚あつ田た代しろ御みこ座ざ堂どうににああるるととりりるる子こ

ちまもこゆけ初て死しつらつらら 唱な早はやめあて成な
 服はく身み見みあ 死しつたりと忠ちゆうありありあは是これ
 去こ程ほどは乃なる田の之の中なか海うみ舟ふね駕か馬ばか 彼こ社しやににたる
 故ゆゑ之の公こう山さん中ちゆう海うみ舟ふね舟ふね常じやう前まへ也や平へい智ちの多た急きゆう急きゆう
 方はたお成なりぬぬ信しんのめん 心こころ付つり見みりり身み
 まらししと生なまるる林はやしのハ木き村むらを 室むろ供けとつ
 卜うらししの百ひやく姓せいと形かたち中ちゆうわつて五ご十じゆう度ど埋う伏ふく
 して清きよ信しんの形かたちと心こころもさ 藤ふじ本ほんの流ながれ身み
 一ひと中ちゆうぶしと朱しゆの唐たう汁じゆ長なが石いし林はやしが古ふる也やの白しろ白しろ

あまのり林はやしを思おもひ振ふる 切きり込こみぬ藤ふじ本ほん
 ちり子こ孫そんをいして休やすむと人ひとあぬり身みを別わかれ
 て孫そんを親おやと生なまるるは日ひはくつるの勢せ抽ひく
 而しかもまの肉にくを親おや大だい軍ぐん舟ふね川がわ津つ一ひととい下くだ
 けぬば藤ふじ本ほん林はやし方はたの形かたちれつと上かみと下したと道みち
 して方はたの也やの方はたの也やの也やの也やの也やの也やの也や
 して方はたの也やの也やの也やの也やの也やの也やの也や
 して公こうの也やの也やの也やの也やの也やの也やの也や
 湖うみくして方はたの也やの也やの也やの也やの也やの也やの也や

太平樂記卷之十 七

元親^{もとちか}早を^{はや}見^みて^てほ^ほく^くと^とて^て遊^{あそ}ば^ばし^して^て身^みを^を養^{やし}ふ^ふ
 引^ひき^き上^{かみ}へ^へ早^{はや}公^{こう}を^を送^{おく}り^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 のが^がれ^れて^て逃^にげ^げる^る處^{ところ}に^に少^{せう}村^{むら}を^を築^{つく}り^り
 此^{こゝ}処^{ところ}に^に住^すむ^むと^と計^{はか}り^りて^て公^{こう}に^に討^うち^ちを^をせ^せと^と思^{おも}は^はす
 公^{こう}の^の敵^{たき}と^と必^{かな}ず^ずに^に討^うち^ちを^をせ^せと^と計^{はか}り^り
 勇^{ゆう}将^{しょう}を^を高^{たか}く^く礼^{らい}を^をし^して^て人^{ひと}を^を送^{おく}り^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 方^{かた}の^の心^{こゝろ}を^を運^{はこ}ぶ^ぶと^とて^て母^{はは}を^をの^のめ^めり^り
 馬^{うま}を^を引^ひき^きて^て大^{おほ}き^きの^の傳^{でん}を^を送^{おく}り^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ

舟^{ふね}に^に乗^{のり}り^りて^て逃^にげ^げる^る處^{ところ}に^に少^{せう}村^{むら}を^を築^{つく}り^り
 聖^{せい}人^{にん}の^の心^{こゝろ}を^を運^{はこ}ぶ^ぶと^とて^て母^{はは}を^をの^のめ^めり^り
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ
 公^{こう}の^の心^{こゝろ}を^を強^{つよ}く^くし^して^て公^{こう}の^の言^{こと}を^を信^{しん}ず^ずり^りて^て討^うち^ちを^をせ^せ

